ペンネンノルデはいまはいないよ　太陽にできた黒い棘をとりに行ったよ

宮沢賢治

青空文庫

一、ペンネンノルデが七つの歳に太陽にたくさんの黒い棘ができた。赤、黒い棘、父赤い眼、ばくち。

二、ノルデはそれからまた十二年、森のなかで昆布とりをした。

三、ノルデは書記になろうと思ってモネラの町へ出かけて行った。氷羊歯の汽車、恋人、アルネ。

四、フウケーボー大博士はあくびといっしょにノルデの筆記帳をすぽりとのみ込んでしまった。

五、噴火を海へ向けるのはなかなか容易なことでない。

化物丁場、おかしなならの影、岩頸問答、大博士発明のめがね。

六、さすがのフウケーボー大博士も命からがらにげだした。

恐竜、化石の向こうから。

大博士に疑問をいだく。噴火係の職をはがれ、その火山灰の土壌を耕す。部下みな従う。

七、ノルデは頭からすっかり灰をかぶってしまった。

サンムトリの噴火。ノルデ海岸でつかれてねむる。ナスタ現わる。夢のなかでうたう。

八、ノルデは野原にいくつも茶いろなトランプのカードをこしらえた。

ノルデ奮起す。水の不足。

九、ノルデがこさえたトランプのカードを、みんなは春は桃いろに夏は青くした。

恋人アルネとの結婚……夕方。

十、ノルデはみんなの仕事をもっとらくにしようと考えた。そんなことをしなくってもいいよ。おれは南の方でやって見せるよ。大雷雨。桜の梢からセントエルモの火。暗のなか。

十一、ノルデは三べん胴上げのまま地べたにべちゃんと落とされた。

どうだい。ひどくいたいかい。どう？　あなたひどくいたい？　ノルデつかれてねむる。

十二、ノルデは太陽から黒い棘をとるためにでかけた。

太陽がまたぐらぐらおどりだしたなあ。困るなあ。おい断わっちまえよ。奮起す。おーい、火山だなんてまるで別だよ。ちゃんと立派なビルデングになってるんだぜ。

青空文庫情報

底本：「セロ弾きのゴーシュ」角川文庫、角川書店
1957（昭和32）年11月15日初版発行
1967（昭和42）年4月5日10版発行
1993（平成5）年5月20日改版50版発行
入力：土屋隆
校正：田中敬三
2006年3月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ペンネンノルデはいまはいないよ　太陽にできた黒い棘をとりに行ったよ

宮沢賢治

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/